

## ■ 阪神高速グループの求める技術 重点項目

【タイトル】：交通情報のリアルタイム取得による精度の高い渋滞・事故情報即時提供技術
【背景・課題】： 現状の情報提供は、超音波検知器により情報収集処理提供しているところ。 2021年度の交通管制システム更新により、情報収集更新の周期が1分更新になり、かなり改善されたいえるが、検知器の設置間隔の関係上、タイムラグは生じるのはやむを得ない、このため、渋滞や事故情報提供の即時提供を行うためには、車の動きをより広範に同時に把握することが重要になる。
【ゴール・目標】： 広範囲なデータ取得可能な新たなセンサー技術や、車からのプローブ情報をリアルタイムに把握する技術が実用化され、渋滞や事故情報提供の即時性が向上していることにより、お客さま満足度が向上している。
【実現イメージ】： ・お客さまのニーズに応じたルート選択や定時性を確保 ・最高レベルの安全性と走りやすさが備わった高速道路 ・災害発生時のお客さまの安全確保とライフライン機能維持 ・関西の都市構造の強靱化
【取組み】： ・プローブ交通情報等を活用した交通制御による交通事故・渋滞の削減 ・車両や個人の I C T 機器と連携した避難誘導方法や交通制御手法を確立
【対象設備－対象構造物】： ・電気通信 － 電気通信
【業務分野】： ・交通

(2022年9月時点)